

日本音楽集団

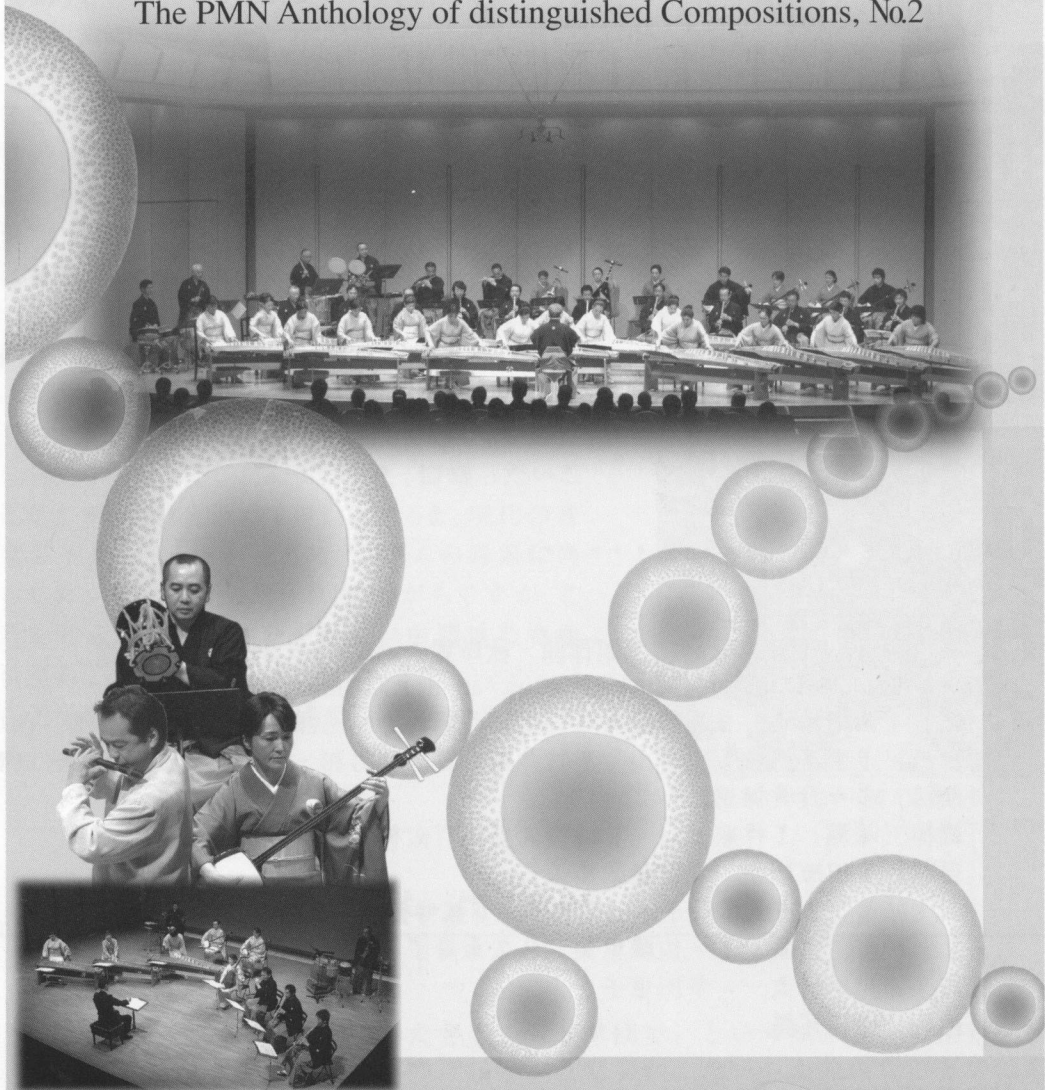
PRO MUSICA NIPPONIA



第179回定期演奏会
The 179th Regular Concert

名曲選シリーズⅡ

The PMN Anthology of distinguished Compositions, No.2



2005年5月19日[木]
午後7時開演(午後6時30分開場)
第一生命ホール

- ：主催：特定非営利活動法人日本音楽集団
NPOトリトン・アーツ・ネットワーク／第一生命ホール
- 日本音楽集団：<http://www.promusica.or.jp/> E-mail office@promusica.or.jp
 - トリトン・アーツ・ネットワーク：<http://www.triton-arts.net>

一、竹に同じく(1979年)池辺晋一郎作曲

Almost a bamboo... for 15 bamboo pipes, comp. by IKEBE, Shin-ichiro

[笛] 西川浩平・越智成人 [笙] 真鍋尚之 [箏] 西原祐二 [龍笛] 竹井誠
[尺八] I 米澤浩 II 加藤秀和 III 阪口夕山 IV 元永拓 V 渡辺淳 VI 原郷隆
[鳥笛] I 穂積大志 II 守啓伊子 III 盧慶順 IV 島村聖香
[指揮] 田村拓男

二、箏四重奏曲(1968年)長沢勝俊作曲

Quartet for Koto and Jushichigen, comp. by NAGASAWA, Katsutoshi

[箏] I 熊沢栄利子 II 桜井智永 III 山田明美 [十七絃] 城ヶ崎美保

三、日本楽器によるシナウイ(2000年)朴範薫作曲

SINAWI for Japanese instruments, comp. by Park Bum Hoon

[笛] 西川浩平・越智成人
[尺八] I 米澤浩・阪口夕山 II 渡辺淳・原郷隆 III 加藤秀和・元永拓
[三味線] 山崎千鶴子・守啓伊子 [琵琶] 田原順子・首藤久美子
[二十絃箏] I 熊沢栄利子・久東寿子・高橋はるな II 山田明美・早川智子・彦坂恵美
[十七絃] 宮越圭子・丸岡映美・佐藤里美
[打楽器] 望月太喜之丞・若月宣宏・多田恵子
[指揮] 田村拓男

休憩

四、交響譚詩(1943年)伊福部昭作曲/秋岸寛久編曲・日本音楽集団版初演

Ballata Sinfonica, comp. by IFUKUBE, Akira / arr. by AKIGISHI, Hirohisa

[笛] I 西川浩平 II 越智成人 [笙] 真鍋尚之・三浦礼美(助演) [箏] 西原祐二
[尺八] I 米澤浩・阪口夕山 II 竹井誠 III 加藤秀和・元永拓 IV 渡辺淳・原郷隆
[胡弓] 多々良香保里
[細棹三味線] I 杵家七三 II 穂積大志 [太棹三味線] 工藤哲子
[琵琶] I 田原順子 II 首藤久美子
[二十絃箏] I 熊沢栄利子・三宅礼子 II 桜井智永・高橋はるな III 早川智子・山田由紀
[十七絃] I 宮越圭子・佐藤里美 II 久東寿子・丸岡映美
[打楽器] 尾崎太一・多田恵子
[指揮] 田村拓男

五、郢曲「鬢多々良」(えいきよくびんたたら)(1972年)伊福部昭作曲

Bintatara per 16 strumenti di Giappone, comp. by IFUKUBE, Akira

[笛] I 西川浩平 II 藤舎理生(助演) [能管] 越智成人
[笙] 真鍋尚之 [箏] 西原祐二 [龍笛] 竹井誠
[筑前琵琶] 田原順子 [薩摩琵琶] 首藤久美子
[箏] I 山田明美 II 桜井智永 III 三宅礼子 [十七絃] 城ヶ崎美保
[打楽器] 尾崎太一・望月太喜之丞・盧慶順・島村聖香
[指揮] 田村拓男

「交響譚詩」日本音楽集団版の初演によせて

伊福部 昭

拙作『交響譚詩』は、戦時中の作品で、原作は持ち替え二管編成のオーケストラですが、当時、日本ビクターからSP盤が発売され、又、総譜が出版されたこともあって、以来、種々な編曲が現われました。吹奏楽、マンドリン・オーケストラ等、その他があります。

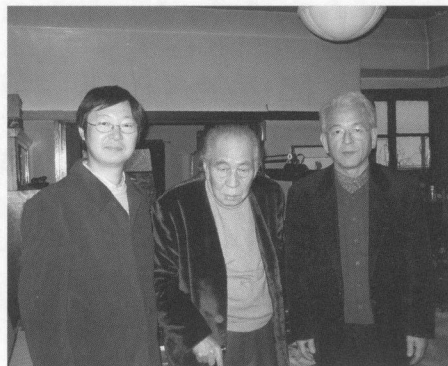
就中、近年、野坂恵子、小宮瑞代二方の二十五絃箏高低二面の合奏録音は、原作よりも佳いなどの評にも接し、作曲者としては中々な問題提起と受けとって居ります。

折りしも、田村拓男氏より今度、新しく日本音楽集団編成で演奏して見たいがどうかとの申出がありました。

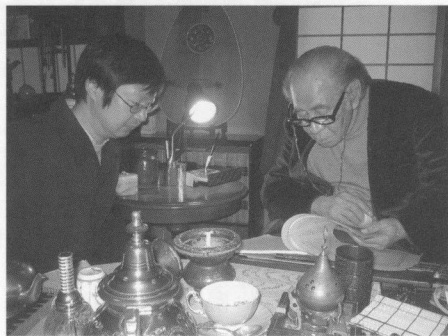
小生は、以前この集団のために作品を書いたことがあります。その時は、作品の性質上、近世の匂が出ぬようにと、敢えて主力である尺八と三味線を除いたのですが、今回は全楽器を使用するとのことで、又、編曲者の秋岸寛久君は東京音大の小生のゼミでよく承知の間柄なので、喜んでこの計画を承諾致しました。どの様な効果が生まれるか小生自身も本日の初演が楽しみです。

又、最後に田村さんがこの集団のために何か一言と云うことでしたので、今更、口幅ったいことですが、自戒を含めて申し上げますと、現代の音楽世界は、自己顕示欲とモダニズムの毒氣に当って何か少し強張ったものとなりがちですが、これを超えて、きっと伸びやかな自由闊達な境地に至ることが望ましいと考えています。

若い皆様は、この轍を踏まぬよう心から希って止みません。



伊福部邸書齋にて、左より秋岸、伊福部氏、田村



新編曲のスコアに鋭い視線が注がれる

(いずれも2005年3月28日伊福部邸で)

「交響譚詩」の編曲にあたって

秋岸 寛久

オーケストラのために書かれた音楽を音楽集団で、という試みは、特にオーケストラの機能が重要視されるこの作品のような場合、たいへん無謀なことではありますが、この曲に用いられている旋法や旋律自体が我々の伝統楽器にとって全く無理のないものだったので、「音楽集団版」も原曲とは違ったおもしろさを持った新たな作品となりうるのではないかと考えています。

今回のアレンジにあたって、伊福部先生のご自宅に伺って細部にわたってアドバイスをいただけてきました。私が「伊福部ゼミ」に参加させていただいていた20年前と少しも変わらない明晰さとユーモアあふれるお話にあつという間のひとときを過ごさせていただき、たいへん感謝しております。熱のこもった演奏で音楽集団のメンバーが私に代わってご恩返しをしてくれることと思います。ありがとうございました。

胸躍る「交響譚詩」日本音楽集団版初演！ 「名曲選Ⅱ」～アジア友好へのメッセージ～

田村 拓男

多彩な名曲選Ⅱとなりました。何の脈絡もないとお感じの方々に、この際敢えて「日本の楽器たちが奏でるアジア友好へのメッセージ」と謳わせて頂きましょう。

日本や東南アジアを中心に分布する竹、その竹で作られた笛たちの悠久の響き「竹に同じく」。今や高校生ら若い芽の愛奏曲ともなっている「箏四重奏曲」。韓国音楽の元祖を日本楽器にのせた日韓伝統の一体化を思わせる「シナウイ」。そして伊福部作品2曲。郢曲「鬢多々良」(1972年)は、平安中期にわが国に興った音楽の一形態で、その旋法には日本、中国、インドなどとの混淆があったといわれています。1943年の「交響譚詩」は、1934年に来日したロシア生まれの作曲家チェルプニンに短期間ながらレッスンを受けたあとの作品です。アイヌの子どもたちと遊んで育った伊福部先生には、アイヌのほか北方民族、大陸、ロシアなど汎アジアの民族的感性が備わっていると察せられます。私たちが授かった名曲を通じて、アジアの同胞に友好のメッセージを贈りたいと思います。

伊福部先生のご指導と秋岸さんの奮闘に感謝しつつ…。

曲目解説

竹に同じく 池辺晋一郎作曲

1979年に日本音楽集団の委嘱で第131回定期演奏会に初演された。「日本の管楽器はほとんどが竹を素材にしている。そしてたとえば尺八は、竹林を風が抜ける時朽ちた竹が鳴る、そのように吹くことが理想とされている。

また、筒音ということばがあるが、巻いたり曲げたりすることなく、日本の管楽器はまさしく、筒だ。

筒という字は、竹に同じくである。日本の管楽器は、竹そのものと同じ在り方をしようとしてきた。敢えて、かつてとったことのない作法を試みた。詩を書き、それを線や点で視覚化し、最後に音化した。音楽を、文学や自然と密着させてきた日本人の感覚の私なりの具現。また一方で、ベートーベンの<田園>の方法のコラージュ。」(初演プログラムより)

箏四重奏曲 長沢勝俊作曲

NHKの委嘱で作曲された箏三面と十七絃一面よりなる四重奏曲。純然たる器楽曲として箏と十七絃の機能を十分に生かしながら、合奏の楽しさとその可能性を追求しようとした、二章よりなる作品である。一章は対位法的な処理と四度和声に近いごきをとり入れ、また二章では変拍子と、ピッチカートによるオスティナート効果の上に、新鮮な曲想のテーマがつけられている。

1968年作曲、同年放送初演、第8回定期演奏会で演奏会初演。

日本楽器によるシナウイ 朴範薫作曲

日本音楽集団は内外の多くの音楽家と交流し、共演してきたが、中でも隣国の韓国、中国との交流からは少なからず影響を受けてきた。その様な中から2000年11月に第161回定期演奏会～ASIA新世紀へ～協調と融合～が企画され、この作品が生れ、作者の指揮で初演された。

「シナウイとは、ソウル以南(京畿道、忠清道、全羅道)の世襲巫(シャーマン)のクツ(儀式)に伴う音楽、またそれに基づいた音楽のことである。遅いテンポから速いテンポへ進行する長短(チャンダン=周期性を持つリズム)の形式に合わせながらそれぞれの楽器が即興的に演奏していく形式を持っている。あたかも靈魂の叫びを連想させるような悲痛な調子の音楽である。今回の<日本楽器によるシナウイ>は、韓国音楽の元祖とも言われるシナウイを日本楽器に乗せて展開させようと試みた作品である。」(初演プログラムより)

交響譚詩 伊福部昭作曲

1943年、作曲者29歳の時の作品。同年、日本ビクター主催第2回管弦楽作品懸賞で第1位を得、同時に文部大臣賞も受賞。レコード化により氏の作品中、戦前から最も多く聴かれた曲と思われる。「譚詩」は「バラード」の訳語として使われるが、伊福部氏によれば、バラードとは「躍りと詩が分離しない状態」(『伊福部昭 音楽家の誕生』木部与巴仁：新潮社)だという。2管編成というやや小振りのオーケストラのための作品だが、今回、邦楽器編成の日本音楽集団版初演となる。伊福部氏には珍しくソナタ形式による第一楽章 Prima Ballata ; allegro capriccioso と自由な三部形式の第二楽章 Seconda Ballata ; andante rapsodicoの二部構成になっている。

この曲は、1942年に30才という若さで亡くなったギタリストの次兄・勲氏に捧げられており、殊にアンダンテの第2楽章は、この兄への追悼の思いが強く感じられるものとなっている。

郢曲「鬢多々良」 伊福部昭作曲

この作品は1972年文化庁の委嘱により作曲され、73年秋の芸術祭主催公演「日本音楽集団演奏会」で初演された。作者の初めて手掛けた邦楽器のための作品である。01年の海外公演「プラハの春音楽祭」でも演奏された。

「郢曲とは、平安中期にわが国に興った音楽の一形態であるが、様式としては、宮廷社寺楽と庶民の俗楽との中間に位していた。したがって、旋法なども、わが国と唐・天竺などとの混淆にあったと考えられている。鬢多々良とは、詠唱を伴ったかなりくつろいだ舞い楽で、あまり厳格に定った振りはなかったらしく、各自が自由に舞い、やがて乱舞に至るのが常であったとされる。」(初演プログラムより)

第1部分は、絃楽器群が三つの旋律を綾なし反復する上に、管楽器群の伸びやかな旋律が奏でられる。第2部分は、各楽器が順次現われ旋律を歌う。そして第3部分は再現部であり、全楽器の大合奏となってしめくられる。

作曲者プロフィール

池辺 晋一郎

いけべ しんいちろう

1943年生。71年東京芸大大学院修了。池内友次郎、矢代秋雄、三善晃、島岡譲の各氏に師事。66年日本音楽コンクール第1位。以後音楽之友社作曲賞、尾高賞2度、日本アカデミー賞優秀音楽賞8度など受賞。作品は、管弦楽曲、合唱曲をはじめ映画音楽や舞台音楽など多数。随筆集や対談集などの著書も多い。紀尾井ホール、横浜みなとみらいホールアドバイザーなどを務める。(社)日本作曲家協議会会長、東京音楽大学教授。

長沢 勝俊

ながさわ かつとし

1923年東京に生れる。清瀬保二に作曲を師事。64年の日本音楽集団創立に参加。49年以来人形劇団「ブーク」の音楽を監修。86年歌舞伎・市川猿之助「ヤマトタケル」などの音楽を作曲。90年紫綬褒章を受章。6回の日本音楽集団の海外公演に参加。日本大学芸術学部修了。日本音楽集団の名誉代表。「子供のための組曲」「組曲・人形風土記」「大津絵幻想」「萌芽」「錦木によせて」他邦楽器のための作品多数。

朴 範 薫

ぱく はんぶん

韓国中央大学芸術大学音楽科修了。武蔵野音楽大学及び大学院作曲科修了(日本)。韓国東国大学校仏教科博士課程修了(哲学博士)。国立国楽管弦楽団団長及び芸術総監督歴任。現在、オーケストラ・アジア韓国代表、及び常任指揮者。韓国中央大学総長。ソウル国楽芸術高校理事長。大韓民国国民勲章、韓国舞踊音楽作曲賞、KBS国楽大賞作曲賞、大韓民国作曲大賞を受賞。

伊福部 昭

いふくべ あきら

1914年5月31日、北海道釧路の生れ。当時警察署長の父は、彼の頭脳明晰を予見して1年早く小学校に入学させようと、同年3月5日生まれとして届ける。子どもの頃より土着のアイヌ人の子どもと遊ぶ。北海道帝国大学林学科卒業。独学で作曲を学ぶ。

1935年「日本狂詩曲」でチェレプニン賞を受賞。「土俗的三連画」(1937年)、「ピアノ組曲」(1938年)ほか、オーケストラ曲、『ゴジラ』などの映画音楽、バレエ曲など多数。東京芸術大学作曲科講師(1946年)として芥川也寸志、黛敏郎らを育てる。著書『管弦楽法』は作曲技法の古典として地位をしめる。東京音楽大学学長(1976年)。紫綬褒章受章(1980年)。文化功労者顕彰(2003年)。

秋岸 寛久

あきざし ひろひさ

1962年横浜市生まれ。東京音楽大学卒。作曲を助川敏弥、浦田健次郎、三木稔の各氏に師事。卒業時の作品「三味線協奏曲」は仙台フィル及び日本フィルの定期演奏会、東京音大シンフォニック・オーケストラのアメリカ公演等で演奏される。日本フィル九州公演20周年委嘱作品「交響連詩(九州)」(和田薫氏と連作)、横浜国大グリークラブの創部50周年委嘱作品「樹木頌」、NHK邦楽技能者育成会45期委嘱作品「往来」などを手掛ける。

2004年

- 12月 8日(水) 宮城県加美町中学校音楽鑑賞教室
加美町中新田文化会館バツハホール、小野田やくらいホール
- 12月13日(月) 第39回成城学園中学校音楽鑑賞会 成城学園50周年記念講堂
- 12月14日(火) 日本音楽集団40周年記念作曲コンクール本選会 けやきホール
- 12月23日(木) 日本音楽集団～邦楽の魅力～(新八千代獅子・ダンス・コン「四季」他)
めぐろパーシモンホール(大ホール)

2005年

- 1月 2日(日)～5日(水) 新春を飾る日本の響き～和楽器の調べ
2日(日) 東京オペラシティコンサートホール
3日(月) 町田市民ホール
4日(火) 横浜みなとみらいホール
5日(水) 大宮ソニックシティ大ホール
- 1月25日(火) 第178回定期演奏会～新しい音を探るVol.2 津田ホール
- 1月31日(月) 生協コープかごしま文化鑑賞会「まい・夢」(ダンス・コン「四季」他)
鹿児島市民文化ホール(第2)
- 2月12日(土)～3月26日(土) 渋谷区伝統和楽器こども教室「三味線にチャレンジ!」「横笛にチャレンジ!」
後期5回 渋谷区立加計塚小学校
- 2月27日(日) 平成16年度田園パライツォ文化ホール自主事業
日本音楽集団安芸高田公演(ダンス・コン「四季」他) 田園パライツォ文化ホール
- 4月24日(日) 『ズラリ和楽器!にぎやかコンサート』(奈良親と子の劇場) 奈良県文化会館国際ホール
- 5月19日(木) 第179回定期演奏会～名曲選シリーズII 第一生命ホール
- 7月 6日(水)～8日(金) 平成17年度北九州市中学生音楽鑑賞教室 戸畑市民会館大ホール
- 9月 4日(日) 小山公演(「巨火」他) 小山市立文化センター
- 9月16日(金) 富山県砺波高等学校音楽鑑賞会
- 9月23日(金) 日本音楽集団和楽器の調べ 黒部市国際文化センターコラーレ
- 9月27日(火) 第180回定期演奏会
～コンポーザーズ・プロジェクト・シリーズⅦ湯浅譲二氏からのメッセージ 津田ホール
- 9月30日(金) 大垣市小学校音楽鑑賞会
- 10月12日(水) 佐倉音楽鑑賞会 佐倉市民音楽ホール
- 11月18日(金) 第181回定期演奏会
～合唱と邦楽器たちとの出会い NHK東京児童合唱団を迎えて 第一生命ホール

チラシ・プログラム制作 デザイン：佐々木達彦 写真：篠塚明

賛助会員へのお誘い

1999年10月、特定非営利活動法人日本音楽集団が発足したのを契機に、賛助会員を募集しています。多くの方々からの支援を仰ぎ、息の長い活動を目指したく、ご協力お願い申し上げます。

会費(1年一口)＝法人会員30,000円 個人会員10,000円

ニッポニア・ファイブ受付中

連続5回の定期演奏会がお得な料金でフリーパスになります。

ニッポニアAファイブ 定価5,000円のA指定席を5回連続15,000円

ニッポニアBファイブ 定価4,000円のB指定席を5回連続12,000円

募集の詳細はチラシをご参照ください。

特定非営利活動法人日本音楽集団

【正会員】(団員)(楽器別・五十音順)

笛
越智成人
西川浩平

笙
真鍋尚之

箏
稲葉明德
西原祐二

尺八
加藤秀和
阪口夕山
添川浩史
竹井誠隆
原郷重康
藤崎重也
水川貴風
三橋貴朗
宮田耕八
元永拓
米澤浩
渡辺淳

胡弓
畦地啓司 (作曲)
多々良香保里

三味線
杵家七三子
工藤哲子
坂口美香子
田中悠美子
穂積大志
大田弘大
大田司郎
守啓伊子
山崎千鶴子

琵琶
首藤久美子
田原順子
細川華鶴子

箏
衣袋聖志
大畠菜穂子
久東寿子
熊沢栄利子
桜井智永
佐藤里美
島崎春美
城ヶ崎美保
高橋はるな
田村法子
早川智子
彦坂惠美
久本桂子
前川美保子
松岡知代
丸岡映美
三宅礼子
宮越圭子
山田明由
山田由七
吉村正重子
渡辺正重子

打楽器
白杵美智代
尾崎太一
島村聖香
仙堂新太郎
高橋明邦 (指揮)
多田恵子
望月太喜之丞
盧慶順
若月宣宏

指揮
稲田康
田村拓男
田村文生

作曲
秋岸寛久
尾形敏幸
川崎絵都夫
長沢勝俊
福嶋頼秀

楽器・舞台
中島隆

名誉代表
長沢勝俊

代表
田村拓男

副代表
尾崎太一

運営委員
秋岸寛久
越智成人
添川浩史
西川浩平
箕田司郎
望月太喜之丞
米澤浩

監事
宮田耕八
今井隆夫

事務局
霜島素子
益井紀恵

【賛助会員】

法人 (株)全音楽譜出版社
(株)宮本卯之助商店
NPOトリトン・アーツ・ネットワーク

個人
青柳堯
新井克輔
飯塚絹子
飯吉正山
伊藤美恵子
今村厚子
江西緑枝
大関富衣
太田颯衣
川壁彰則
岸藤陽子
後反田素幸
四田和繁
杉田厚雄
関井恵見
藤山雅弘
中島靖子
島田靖山
古川羽衣
本田実徳
水野正徳子
渡辺京邦子
渡辺治子
Andrew MacGregor

【協力会員】(五十音順)

名誉団員
坂井敏子
白根きぬ子
野坂恵子
宮本幸子

団友
青木誠史
秋浜悟史
荒谷俊一
伊藤惣隆
稲垣悦子
大川窪祥悦子
菊地悌子
楠掛昭二
鞍沼廣一
鯉沼進一
坂田祐靖
芝水義矩
清浦弘和

砂崎知子
芹沢英雄
高野文子
田嶋恵美子
田嶋直士
田中光子
鶴野和子
藤舍呂悦船
藤舍呂船
仲俣申喜男子
半田淳平
廣瀬量久
福田輝由
鳳声晴旭
星谷一郎
細田陸美
増田太佐衛
望月橋康八
元矢崎明子
柳家小三治

横山勝也
吉沢昌江
デイヴィッド・ローブ
デイヴィッド・ヒューズ
ヘンリー・パーネット
ラニィ・シェルダン
王燕樵
張曉輝

地方支部
道東支部 谷藤 彌
道東支部 竹馬 亘
水戸支部 斎藤 幸
山梨支部 郷藤 山
長野支部 佐藤 宇
新潟支部 飯吉 正
愛知支部 山田 孝
愛媛支部 渡辺 治
福岡支部 安武 由香
熊本支部 古川 安春

2005年4月現在

2004年11月26日刊行!

長沢勝俊

音に命を吹き込む・・・
長沢音楽のすべて



日本音楽集団の西川浩平、水川寿也、宮越圭子の対話者が、“長沢ブシ”の魅力を訪ね、長沢勝俊の音楽人生について語る。

長沢と共に歩んだ方々の貴重なメッセージを取録。また、作品年表も掲載。 A5判 定価700円

特定非営利活動法人

日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1 滝沢ビル302 TEL03-3378-4741 FAX03-3376-2033
<http://www.promusica.or.jp/> E-Mail office@promusica.or.jp



アイ・エム・エス

●楽器リース ●保管 ●移動 ●ステージ・スタッフ派遣

〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4 ゆうでんビル

PHONE.03-3397-2292

FAX. 03-3397-7728

箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、
楽器の本質を追究した箏

十七絃箏

二十絃箏

二十五絃箏

Tokyo



時を超え心に残る音づくり

有限会社 琴光堂

〒152-0003 東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL03(3792) 8481 FAX03(3792) 8437
E-mail : tokyo@kinko-do.com